

第6回躰ひろば実施報告

2024年6月22日（土）に「第6回躰ひろば」が対面形式にて立命館大学・大阪いばらきキャンパスで開催された。今回のプログラムは2部構成となり、第1部では学生部門の口頭発表、第2部ではラウンドテーブルにて若手のキャリアについて議論された。

第1部 学生部門 口頭発表

犬走先生（京都大学大学院）より「手足での到達課題における運動目標に応じた体肢間協調」、西野先生（神戸大学）より「小趾外転筋に焦点を当てたタオルギャザーエクササイズが立位バランスに及ぼす影響」というタイトルで発表いただいた。両発表とも、審査を通過し発表賞を受賞されるに相応しい素晴らしい研究成果であった。質疑応答では、対面開催ならではの活発な議論がなされ、プログラム終了後も登壇者と参加者の活発なディスカッションが続いている様子が大変印象的であった。



左から桜井会長、西野先生、犬走先生、伊坂理事長

第2部 ラウンドテーブル「～バイオメカニストの生き方：幸せな研究生活のために～」

長野先生（立命館大学）、進矢先生（広島大学）、橋詰先生（立命館大学）、国正先生（新潟大学）、木伏先生（神戸大学）の6名の先生方より、これまで歩んできたキャリアや、経験を通じて学んだことについてご紹介いただいた。大学教員のポストを獲得するまでのお話だけでなく、結婚や出産などのライフイベントや、子育てと仕事の両立など、普段なかなか聞くことができない内容をお聞きした。その後、参加者同士で研究者としてのキャリアに

ついて、役職、立場、年齢、性別など関係なく、自由な意見交換の時間が設けられた。「学生が自分のキャリアに関わるロールモデルが不足している」や、「研究者が幸せになるための議論ができる機会や環境が必要」などの意見があがった。第2部のコーディネーターである橋詰先生から「自分の意見を理解してもらうのは難しいですが、知っていただくということが非常に重要」というまとめの言葉で締めくくられた。

最後に今回のプログラムを通じて伊坂理事長から「幸せになるということが人生、社会の大きな目的のひとつ」というお話をいただき、社会を良くするために研究者がまず幸せになることも必要であると感じた。

第6回韮ひろばでは最新の研究に触れるだけでなく、キャリアパスについて考え、多様な背景を持つ方からご意見をいただく機会をいただいた。登壇者ならびに参加者の皆さんに、厚くお礼申し上げたい。



ラウンドテーブルでの様子

2024年6月28日

文責：田中貴大（立命館大学）